

漬年料雜菜

蘭菹三斗 料鹽二升四合 右漬秋菜料

〔日本書紀九三〕二年二月己酉立忍坂大中姬爲皇后○中初皇后隨母在家獨遊苑中時鬪雞國造從

傍徑行之乘馬而莅籬謂皇后嘲之曰能作園乎汝者也鼻此云那且曰壓乞戶母其蘭アヲキ一莖焉壓乞此

戶母此皇后則採一根蘭與於乘馬者因以問曰何用求蘭耶乘馬者對曰行山撥蟻也蟻此云摩時皇

后結之意裏乘馬者辭无禮即謂曰首也余不忘矣是後皇后登祚之年竟乘馬乞蘭者而數昔日之罪

以欲殺爰乞蘭者類捨地叩頭曰臣之罪實當萬死然當其日不知貴者於是皇后赦死刑貶其姓謂稻

置

〔續修東大寺正倉院文書後集四十〕寫經司解 申錢用事

合所請錢貳仟文盡

買物合十六種○中

蘭十把 直錢八文○中

以前錢盡狀并買物顯注如前以解

天平十一年八月十一日

史生高屋連赤麻呂○以下

〔續々修東大寺正倉院文書四十六帙六〕蘭貳 青大角豆拾把

天平勝寶二年七月四日

倉垣三倉

〔古今和歌集四〕これさだのみこの家の歌合によめる

としゆきの朝臣

なに人がきてぬぎかけしふちばかまくる秋ごとこのべをにははす

ふちばかまをよみて人につかはしける

つらゆき

やどりせし人の形見か藤ばかま忘られがたきかにほひつ